



様式第10号（第14条関係）

2025年6月18日

令和6年度持続可能な地域づくり団体支援寄附金実績報告書

鳥取県知事 平井 伸治

住 所 鳥取県八頭郡八頭町安井宿 1154 番地

団体名 Frontier School

代表者職・氏名 代表・内田奏杜

令和6年度中に交付を受けた寄附金について、下記のとおり活用して事業を実施しましたので、持続可能な地域づくり団体支援寄附金交付要綱第14条第1項の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

1 寄附金受入額 令和6年年度合計 4,000 円

2 添付書類

- (1) 寄附金活用実績報告書＜様式第10号の2＞
- (2) 寄附金活用収支決算書＜様式第10号の3＞

様式第 10 号の 2 (第 14 条関係)

寄附金活用実績報告書

事業名	とっとり未来 Lab.
実施期間	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日
事業内容 ※対象者の範囲や 人数、実施方法等を 具体的に記入。	〈顔合わせ(チームビルディング)〉 日時：2024 年 5 月 17 日 内容：アイスブレイクや今年度のブルバードでの個人目標を立てグループ内で共有した。1 時間という短い時間だったがどんな 1 年間にしていきたいか共通認識を育むことができた。 工夫した点：23 年度後期は単発的に取り組んできたが 24 年度からは 1 年を通した育てたい生徒像を策定し、カリキュラムを組んで実践していくこととした。 〈オリエンテーション(やりたいことリスト作成)〉 日時：2024 年 6 月 16 日 内容：「好き」を中心にマインドマップを個人個人が記入し、それを共有し合い、仲間の好きを掛け合わせながらやってみたい企画を考えた。 中学生たちの「好き」を組み合わせ、協働的に挑戦したいことを決めていくことができた。また、前年度は大学生がファシリテートする場面が多かったが、今年度は 3 年生が主体となって進めることができた。新 1 年生にとって自分たちの 2 年後の姿を想像する機会にもなった。 工夫した点：前年度まではマインドマップ作成の際の項目を「好き・興味・得意」としていたが「好き」だけをピックアップし、まずは自分たちの好きを実現してみることに注目できるようアップデートした。 〈0 円食堂(お楽しみ企画)〉 日時：2024 年 9 月 15 日 内容：学びの秘密基地(屋内)でアイデアを出すだけでなく、外に出たり地域の人と話したりすることで、やりたいことを深化させるためにお楽しみ企画(大学生が中学生に提供するイベント)を行った。今回は 0 円食堂として、中学生が八頭町内の農家を周り、食材

	を無償でいただいて料理を作った。道中での雑談や農家との交流を通して当団体が掲げている「心が動くヒト・コトに出会う」きっかけづくりの初歩を築くことができた。また、メンバー同士の絆を深めたり、やりたいことを深化させたりするために行ったものだったが、当日は農家の方から直接農場についての説明を聞けたり、食事の際に農家の方と談話できたりしたことで、絆を深めるだけでなく、八頭町の人や食べ物の魅力を実感する機会となった。 〈企画実施(アニメ飯)〉 日時：2024年11月17日 内容：やりたいことリストを組み立てる中で、アニメ飯を作り食す企画をすることとなった。0円食堂なども参考にしながら、中学生が自らの手で企画を試行錯誤し当日は予定よりも早く売り切れとなった。
事業実施の 成果・効果 (見込み)	(1)今後の社会の担い手となる中学生の資質・能力の向上につながる →中学生が主体的に行動し、新しいメンバーと共に新しい目標を立て新しい活動に取り組む中で、中学3年生を中心に「ブルーバードをこれからも継続させるにはどうしたら良いか」考え、企画に繋げようとしていた。 (2)学校、家庭、地域の協働による生涯学習社会のロールモデルになり得る →社会教育の特性である多様な人(大学生や地域の大人など)との関わる機会をつくることができた。 (3)行政や学校など公的機関の意識転換に繋がる →実際に、行政の方から「子どもたちからパワーをもらえ」「子どもたちの動きを見て自分もできる範囲で協力したい」などの声が上がった。 (4)総合的な学習(探究)の時間に汎用できる可能性がある →事業の中で地域貢献にも繋がる企画がされたり、中学生の主体性・協働性が出てきており、 (5)教職を目指す大学生にとっては教職能力の向上に繋がる →大学生側は子供に興味があったり教育学部所属していたりするメンバーが増加し、中学生とのかかわりを通して学びを得ているという声が上がっている。 (6)関係人口の創出・拡大ならびに地域活性化に繋がる

	→Frontier School の学生の多くは岡山大学の学生であるため民泊施設を利用したり、事業をあーとふるで月に1回は開催したりすることで関係人口創出に寄与した。
--	---

※活用事業が複数ある場合には、事業ごとに作成、又は事業の内訳がわかるように記入すること。

※提出期限までに成果・効果を示すことが困難な場合は、その見込みを記載すること。

様式第 10 号の 3（第 14 条関係）

令和 6 年度寄附金活用収支決算書

【収 入】

区 分	金額（円）	内 訳
支援寄附金	44,000 円	令和 4・5 年度繰越金
支援寄附金	4,000 円	令和 6 交付分
収入 計	48,000 円	

【支 出】

区 分	金額（円）	内 訳
繰越金	48,000 円	次年度繰越金
支出 計	48,000 円	

※支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費など、経理上の区分名で記載すること。